

で、とりわけナイニ・タルは海拔 3000 m だから寒さはことのほか厳しく、とうとう風邪をひき、インドみやげのマフラーを首に巻いて長距離バスでデリーに入った。

ジャンタル・マンタルを見たいという念願は、ここで滞在中にかなえられた。このジャンタル・マンタルというのは、今から約 250 年ほど前に、ジャイプールの藩王ジャイ・シン 2 世 (1686~1743) が建設した古典式天文台で、肉眼による天体位置観測のための、奇妙な形をした巨大な観測器があることで有名である。デリーのもの、都心にあって、天体の赤経・赤緯や高度・方位角を測るための「ミスラ・ヤントラ」「ラム・ヤントラ」「ジャイ・プラカス・ヤントラ」及び高さ 20 m の大日時計「サムラート・ヤントラ」の 4 種の奇怪な観測器が立ち並び、渋い桃色に塗られたそれらの巨大観測器群が、乾季のインドの空の青さや、芝生と熱帯樹の緑の中でよくマッチしているのが印象的で、ファンタジックな美しい公園天文台となっている。子供達は、それらの観測器にとりつけられた階段を元気に昇り降りして遊びながら、球面天文や、日常生活に直結した太陽の出没などについての知識を、身をもって楽しく学ぶことができる。長い歴史の流れに思いを馳せながら――。

ジャイプールへはデリーから飛行機で往復したが、こ

このジャンタル・マンタルは観測器の種類がずっと豊富で、特に、黄経・黄緯測定用の 12 基の「ラシヴァラヤス・ヤントラ」が興味をひいた。そして「サムラート・ヤントラ」は高さが 27 m もあり、“日時計のプリンス”と呼ばれる。これらのジャンタル・マンタルの写真の一部は、明石天文科学館の「天体望遠鏡と観測資料展」(8 月 1 日~31 日) にも展示された。

最後に我々はインドを南下してマドライの大ヒンドゥ教寺院と、コダイカナル天体物理観測所を見学した。この天文台は、海拔 2000 m の風光明媚な山にあって、最も設備が整っており、電波望遠鏡やコロナ・グラフ、シーロスタット、それに地震・地磁気などの測定器もあって、最大の望遠鏡は 50 cm 反射だが、3 年後には 200 cm 反射鏡をはじめ大小の望遠鏡が 13 台も加わると鼻息が荒い。台長は今度のスクールの講師の 1 人でもあったバップ博士である。

12 月 30 日、僕は来た時と同じ貨物船に乗り、マドラス港を船出して帰途についた。帰りの旅は、行きにもまして長く辛かったが、波に砕ける夜光虫や、船橋から観望される大マジェラン雲や南十字星、黄道光などが旅の夜の僕の心を慰めてくれた。そして、なによりもジャンタル・マンタルの思い出が船の夢路に心地よかった。

## 学会だより

### 第 9 期日本学術会議会員選挙について

昭和 46 年 11 月に第 9 期会員の選挙が行なわれます。会員を選挙し、会員に選挙されるためには、日本学術会議の有権者名簿に登録されなければなりません。前回(第 8 期)の選挙の際有権者であった者でも資格審査後不認定とされた者(選挙管理会から通知あり)と、新たに有権者名簿に登録を求めようとする者は、昭和 46 年 3 月 31 日までに登録用カードを提出して下さい。

登録用カード用紙は、日本学術会議中央選挙管理会(港区六本木 7 丁目 22-34 〒106)に請求すれば無料で送付してくれます。有権者は氏名、住所(住居表示の変更含む)、勤務地等のいずれかに異動があったときは「有権者異動届」を提出して下さい。これを怠ると有権者の権利を行使できないことがあります。

### 第 9 期会員選挙行事予定

昭和 46 年 3 月 31 日: 資格審査のための登録用カード受付締切

4 月下旬 : 第 9 期有権者の資格審査

専門家のためのフジ天体乾板で  
微光星の限界に挑戦しよう!

富士フィルムの

## 富士天体乾板

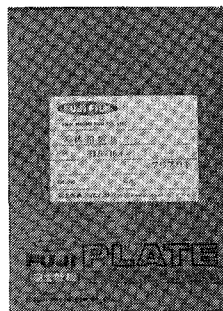
### FLOII タイプ 6×9 版

相反則不規特性抜群  
理想的平面性、高感度  
シャープネス、色調の良化

キャビネ、手札、6×9 版共各 24 枚入  
特別注文品です

予約受付中でございます

富士天体乾板についてのお問合せは……



## 富士特殊感光材販売

781-11 高知県土佐市高岡町甲 2082-8 Tel (08885) 2-0444

- 5月中旬 : 不認定通知発送  
 7月1日～10日: 有権者名簿縦覧  
 7月11日～25日: 立候補届, 候補者推薦届受付  
 8月20日まで : 立候補者氏名官報公示  
 9月5日～20日: 選挙運動のために使用する葉書の  
 検印  
 10月中旬 : 投票用紙, 選挙公報等発送  
**11月25日** : **選挙期日 (投票締切)**  
 11月27日～30日: 開票  
 12月中旬 : 当選人氏名官報公示.

以上

#### 附、有権者の資格審査基準要旨

有権者の資格は次の各項により審査される。

1. 学歴または研究歴——大学卒業後2年, 短大, 高専 (旧高専, 旧教員養成諸学校を含む) 卒業後4年, また研究歴5年以上。
2. 研究論文または業績報告——主として全文またはその内容を明らかにする概要等が, 著書として発表されるか, または, 学会誌, 研究機関の機関誌に発表されたもの。口頭による発表はその内容が学会誌, 機関誌等に掲載発表されて明らかにされたもの (この場合当該誌等を登録用カードに添えて提出のこと)。
3. 研究論文等の発表の時期——選挙期日前の9カ年以内 (昭和37年11月以降) であること。但し次に掲げる者については9カ年を越えてもさしつかえない。  
 (1) 大学に勤務する講師以上の教職にあるもの。(2) 日本学術会議会員およびその職にあった者, 日本学士院会員, 大学名誉教授。(3) 国公立研究所等の研究機関に研究員として勤務しているもの。(4) 博士の学位を有し, しかるべき学会に所属するもの。

(庶務理事・青木)

### 雑報

#### 奄美隕石孔?

地球上の隕石孔の研究はこの10年位の間に著しく進歩した。10年前に確認されていた隕石孔の最大直径は数kmだったのに, 現在では数百kmのも見つかる。この進歩の原因は, 隕石孔を確認するのに隕石衝突のときの衝撃波による変成鉱物, コーサイト, シャッターコーン等を使ったり, 磁気, 重力, 人工地震, ポーリング等の地球物理学的方法を使うようになったことによる。

日本は火山が多く, また造山, 侵蝕作用も大きくて隕石孔の発見にはあまり適していない。今までには一例だけ下保茂氏が沖縄県中頭郡宜野湾村にある星窪という地形について報告しておられる (本誌35巻48頁, 1942年)。まだ本格的な調査は行なわれていない。

さてラ・サール学園の山口, 前田, 町田の三人は奄美大島に隕石孔を思わせる円い湾があり, また, 星窪という地形もあるのを知り, 昨年7月末に調査を行なった。隕石孔ではないかと思われるものが二つある。一つは竜郷村赤尾木の根原部落にある直径約80m 深さ約4.5mの窪地で, もう一つは赤尾木を南岸とする直径3kmの湾である。ここは堆積岩からなっており, 火山である可能性は小さい。隕鉄は見つからなかったが, 砂の中から酸化鉄の球粒や, 鉄を含む鉱物が輝石, かんらん石の結晶中に内蔵されたもの等が見つかった。これらは隕石に由来するとすれば説明できるが, 他にもこういうもの原因になるものがあるかは調査中である。球粒はシベリアのSikhote Alin 隕石付近で採集されたものとよく似ている。本年3月には岩石学者も含む調査団を送り, 真偽いづれかをはっきりさせたいと思っている。

(山口志摩雄, 成相恭二)

#### ミネルト教授の訃報

オランダ, ヌトレヒトのゾンネボルク天文台の台長であった M. G. J. Minnaert 教授は, 永らく病氣療養中の所, 10月26日朝に御逝去されたとのことである。同教授はこれまで, 天文学の広い領域にわたり, 活躍された大天文学者であり, 今夏の I.A.U. 総会では第17委員会 (月) の委員長に選ばれていた。本誌11月号宮本正太郎氏の稿にもミネルト教授のことが書かれている。

(関口直甫)

(322頁よりつづく)

- (2) 夜光分光器用シュミットカメラ (新潟大)  
 口径 130 mm F/0.7 f=91 mm 画角 12°
- (3) ニューカーク・フィルター メキシコ日食観測用 (東京天文台)  
 直径 200 mm

このフィルターは半径方向に濃度変化をもたせたフィルターで ND ガラスの厚みを半径方向に変化させて濃度を連続的に変えたフィルターで一種の非球面レンズと見なせるので列記する。